

平成28年度 宣真高等学校 学校評価総括

1 めざす学校像

仏教的な慈愛の精神を基調とした、他者への思いやりを実践できる女性を育成するとともに、社会において自主的・自立的に活躍できる女性となるためのキャリア教育の充実を目指す。生徒一人一人の個性、適性をよりよく伸ばし、生き生きと自己表現できる教育環境を整えたい。規範意識、公衆道徳、マナーの面において他者の模範となるような生徒を養成して、地域から信頼される学校でありたい。

2 中期的目標

1. 学習指導の補強

- ①学習到達度の低い生徒への対応として、各学年ごとに定期考査の一定期間前から勉強会を設け、継続的な指名講習、希望者対象のまとめ講習を常態化する。
- ②コース・エリア独自に設定した授業、設定科目を見直して、希望する進路に寄与する知識・技能を習得させる。

2. 進路指導における自立心の育成

- ①1年次から将来的な展望を探らせるために、職業体験や職業セミナーといった外部の催しに積極的に参加させて、多様な職種と自己の可能性について考察する機会を作る。
- ②教室外登校生や不登校生の転学・退学率を下げ、カウンセリング室対応等を通じて、学習・行事参加・進路保障の設定をより有意義な形にする。

3. 安全指導の強化

- ①痴漢・自転車事故・薬物被害、ネット犯罪等に遭わないよ、起こさないように防犯意識を高める。
- ②「いじめ」につながるトラブル・誹謗中傷を起こさないように、情報モラルと人権尊重を高める。

3 本年度の取組および自己評価

中期的目標	今年度重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	達成状況と自己評価
	①学習到達度の	①課題や宿題を効果的に実施したり、各学年	①宿題の設定状況、呼び出し補習の実施	①考査前に成績不良者対象に根気強く教科別講習を行っており、考査での成績

1 学習指導の補強	底上げ、欠点補習の 定着	で、欠点保有者と科目を調査して、科目担当者を学年団からおのの選び、補講教室と時間割を組んで生徒に公表する。まとめ講習は希望制で受け付ける。	期間、指名生徒参加率、考査での欠点回復率	上昇率も7割以上の成果ではあるが、肝心のふだんの授業における生徒の理解度の向上と結びついていない。わかりにくいと思われる授業を教科別に見直す必要性を痛烈に感じる。また授業中の居眠り・私語への注意指導が教員によって不徹底があるとの声もあり、授業態勢の均質な確率も、生徒の理解度の重要な要素であることから、改めて教員への周知徹底を図るべきである。
	②コース・エリアの 特色作り	②コースやエリアのガイダンスを行い、それぞれの目標と意義を生徒に強く認識させ、効果的な内容を精査する。	②各教科、各コース、各エリアの計画策定、選択講座の見直し	②コース別のガイダンス、外部での説明会、コースセミナー、大学短大別のバスツアーの計画などを実施できた。大学、専門学校の講師を招いてのガイダンスも安定定着した。エリアの選択講座の見直しも図り、生徒の要望に合った講座を開設した。看護系コースは次年度予備校と提携しての課外授業を計画している。毎年、進路決定に有意義か否かを判断し、旧態依然とした設定を外し、現状未来に即応したコース・エリアの新規特色を模索する努力を怠ってはいけない。

2 社会的自立心の育成	①進路・職業に対する 意識付け	①1年次校外の職業体験セミナー、進学相談会などに連れて行き、職種と勤労の意義を学ぶきっかけとする。進学・就職に向けての意欲を底上げし、進路未決者を減らす。ハローワークとの連携による筆記・面接対策の策定。	①実施回数、取組状況、進路決定率	①池田市民文化会館における各学年ごとの進学ガイダンス職業体験セミナー、外部進学相談会に生徒を引率参加。大小内外合わせて20回開催の達成状況。結果、進学決定者は大学が昨年度比10人増、短大20人増。就職決定者は15名増。進学に対する意識付けは好結果だが、経済的理由で入学辞退のケースが数件あり、受験前に家庭との慎重な意思確認がさらに必要である。
	②不登校生への 対応と進路保障	②段階を踏んでのカウンセリング室生の認定、学年における配慮生の選定、カンセリング室担当者の引率により、教室外登校生を各種進路ガイダンスに参加させる。校外学習、文化祭、体育祭等の学校行事にも進んで参加するよう誘導する。	②カウンセリング室生の行事・ガイダンスへの参加度、進路決定者数、カウンセリング体制のルール作り	②カウンセリング室生同士の関係の調整、配慮生の選定については適切に行われている様である。行事参加状況も同室担任の引率の下、可能な限りの参加がなされ、進路決定も本人の希望に沿う状態であり、呼び出し講習も実施できている。担任2人制となり丁寧な指導が可能となったが、学年にもサポート担当者の設置が望まれる。

3 安全指導の工夫	①防犯・無事故につながる指導の徹底	①少年サポートセンターによる薬物講習、痴漢対策講習、薬物講習、また自転車の安全運転の講習の実施。長期休暇に入る前の各終業式での注意喚起のための訓示。	①実施内容、実施回数、講師、被害件数	①薬物講習、痴漢対策講習、自転車事故に関する交通安全講習を警察関係者や自動車学校を講師に招いて実施。プロジェクターや寸劇を交えての講演は、生徒にわかりやすい工夫がなされており、事後のアンケートでも好評であった。しかし1、2月の路面凍結の日自転車事故が2件増えてしまった。特に冬季の事故防止に比重をかける必要を感じた。
	②友人間トラブルを起こさない指導	②全体での情報モラル講習の実施。各学年の全体集合による、不用意な発言(SNS)の自制についての訓示を各学期に実施。	②生徒指導事故の発生率、学年指導内のトラブルの状況、SNSルール順守・違反の現場状況	②情報モラル教育と人権教育は学年別に全体HRで講師を招いて実施。情報モラル教育を全体会でも説明したが、3学期に複数の生徒による違反ケースが発生した。毎学期、生徒への指導を強化しないと、スマホ使用が生徒間トラブルの元凶となりがねないので、常に生徒間の人権意識を高め、教員に相談しやすい雰囲気作りと、いじめの芽の早期発見に努めないといけない。

#### 4 学校関係者評価

学校関係者は自己評価の結果を踏まえて次のように評価している。

<p>①全学年において復習を随時行っている「勉強会」の実施は評価できる。</p> <p>②不登校生徒や長期欠席者の増加に伴い、家庭との連絡等の重要性が高まる中で、家庭への連絡や意思疎通をしっかりと行っていることは高く評価できる</p> <p>③特色あるコースやエリアの設定授業や選択講座のバリエーションの多さは高く評価できるが、より生徒の満足度を高める必要がある。</p> <p>④将来への選択肢を広げるため、進路について説明会や見学・研修等が数多くあり生徒の満足度も高い。</p> <p>⑤進学と就職についての広い視野と早めの準備を養う取組は評価できる。</p> <p>とりわけ就職希望者の決定率増加は高く評価できる。</p> <p>⑥いじめの早期発見と事後指導についての取組については、不断の注意力と目配りを継続してほしい。</p> <p>⑦クラブ活動と勉強が引き続き両立できるよう指導に努める必要がある。</p>
---